グループホーム　みのりの里　たんぽぽ
（別紙4）　　平成　29　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人　梶田医院		
事業所名	グループホーム　みのりの里　たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450番地1		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、いつまでも自分らしく、その人の思いを大切にして、普通の生活ができるように支援している。又、人生の大先輩であるという尊敬の念を持ち、職員自身も環境の一部である事を念頭におき、一緒に人生(とき)を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は静かな住宅地に建ち、法人の施設が複数隣接している。〝いつまでも自分らしく　その人らしく生活していただけるように〟との思いを理念に掲げ、介護目標と共に、全職員が理解を深め、笑顔で利用者に寄り添う支援に取り組んでいる。母体が医療法人で、院長が毎日事業所を訪問し、利用者の日々の変化の把握や職員が相談できる体制があり、毎年看取り支援が行われ、利用者・家族等の安心に繋がっている。また地域との交流や協力体制作りに取り組み、近隣住民と日常的に交流し、手助けしてもらえる関係が出来ている。利用者の思いを大切に、何事も傾聴する姿勢で支援に繋げ、利用者、職員が共に楽しく家族の一員として暮らせるような取り組みがあり、ゆったりと落ち着きのある事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を伝え、その人らしさ・寄り添う支援に努めている。また、玄関や休憩室に掲示して日々確認している。	開設当初からの理念と、職員全員で後から考えた介護目標を、事業所内の各場所に掲示し共有している。職員は常に理念を意識し振り返りながら、本人の力を活かし、日々喜びを感じ、自信が持てるよう支援することで、いきがいのある生活となるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に保育園との交流会を実施し、入居者様も楽しまれている。近隣住民の方には、こちらから挨拶をして日頃の繋がりを大事にしている。	町内清掃や草刈りは、当日できない場合は、前日に缶拾いなど行い、地域との繋がりを大切にしている。又保育園児の季節ごとの訪問や中学生の介護実習の受け入れなどもある。町内会長や民生委員等から地域の情報を得ており、散歩中に住民と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で地域の一斉清掃前に空き缶拾いに取り組んだり、運営推進会議を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて近況報告をして、助言や意見を頂き、サービスの向上につながっている。避難訓練への参加・ご協力をいただいている。	年6回、規程の参加者で法人グループホーム合同での開催である。ホームの近況や行事、研修報告、ヒヤリハット、防災訓練の報告などのあと様々な意見交換が行われている。地域住民からの要望で、三叉路での一時停止と徐行運転を全職員に注意喚起するなど反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修に参加して、情報を得たり、手続きや疑問等は、担当者へお尋ねしている。また、運営推進会議にて地域包括センターの職員との情報交換や助言を頂いている。	介護保険の更新や申請等で窓口に出向き、相談や問い合わせ等は急ぐ場合は電話で、急がない場合は主にファックスやメールで連絡を取り合っている。市主催の研修受講や担当課の職員の訪問もあり、相談や情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修参加だけでなく、内部での研修を開催して、全ての職員が正しく理解し、拘束のない支援を実施している。	身体拘束の外部研修に職員が参加し、その後事業所内で勉強会を行い全職員で共有し周知できる体制がある。事業所はセンサーマット等を使用しないと決めている。また、職員の言葉遣いの気づきは管理者がその都度、言葉の言い換えなど指導し、拘束のないケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加して、正しい知識をもち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当される方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・ご家族の想いを傾聴し、十分な説明をし、納得・ご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少しでも不安のない生活が送れるよう、面会時や電話で話しやすい雰囲気となるよう配慮し、要望や意向をお尋ねしている。	事業所へ気軽に訪問できることや利用者への支援に家族が大変満足しているという意見が多く、訪問が頻繁である。意見箱に意見は入らないが、職員は、家族の訪問時に要望や意向を聴取しており、遠方の家族には手紙と電話で意向等把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や毎月のミーティング時に、意見交換を行ったり、話しやすい雰囲気となるよう心掛けている。	管理者は職員の相談や研修受講、希望休の要望を叶えている。毎日訪問時に、代表は職員に声掛けしており、職員は意見や要望を伝えやすい関係である。職員から居室で本人がトイレ使用の際、歩行しやすいベッドの位置を工夫することやテーブルの配置の提案で自立排泄に繋がった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や各ユニットの管理者が職員の良い所を伝え合って、やりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為にも、研修にも積極的に参加するよう呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の会議や勉強会を通じて、管理者だけでなく、職員の交流もできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の想いを傾聴し、寄り添うケアを大事にして、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、必ず要望をお尋ねし、本人もご家族も安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の情報を基にアセスメントし、その時の状況に応じた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬と敬愛の念をもち、寄り添って生活し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて近況報告し、要望をお尋ねしながら、より良い関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が訪問しやすいよう声掛けし、面会しやすい雰囲気作りを心がけている。また、本人とご家族の関係を大事にし、外出や外食にも出掛けられている。	面会時間は決めているが、家族は本人に会いたい時間にいつでも面会できる。職員は本人の利用前の交友関係や職歴、本人の話の中から馴染みの関係を把握している。近所の友人の来訪や家族と同行の墓参りの他、法事に出掛けたり、行きつけの理容店に散髪に出掛けることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し、利用者同士が共に支え合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの御縁を大事にし、いつでもお声掛け・ご相談下さいとお伝えしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向に添えるよう傾聴に努めている。会話が難しい方でも筆談したり、想いを伝えてくれるまで待ったり、その方の立場に立って検討している。	生活のペースに合わせて声掛けし、本人の思いの傾聴に努めている。難聴の利用者には、耳元で話したり筆談で思いを把握している。発語が困難な場合は、表情、仕草などで思いを汲み取り、更に家族から情報を得ている。把握した内容は、ケース記録や申し送りノートに記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から話しを聞ける環境をつくったり、入居前に利用されていた事業所から情報を提供してもらい、過去の暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々の状態を観察し、職員間で情報の共有をして支援ができるようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見を聞きながら、スタッフ間での情報交換や、医師・看護師と連携して、本人の望む暮らしとなるよう作成している。	本人・家族等の要望を反映した介護計画を職員間で検討しケアマネージャーが作成している。支援目標は説明後、本人、家族の同意を得ている。毎日の実施記録、毎月のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリングを行ない、状態の変化や入退院時には、医師の指示を入れ即見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有をしながら、好きな事・出来る事を見出しながらケアをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の好みを尋ねながら、お花見や外食支援に取り入れ、外出（買い物・散髪）もしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て防災訓練を実施し、地域の方の参加もあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関が主治医で、往診や定期健診を受けている。医療連携体制もできており、急変時等にはスムーズに対応ができている。	利用開始時に、本人・家族等の承諾で母体の医療機関を主治医としている。眼科や歯科などは以前からの病院に家族の支援で受診し、受診結果の情報を共有している。毎日の往診や年1回の定期検診や急変時の対応も医師、看護師の連携で適切な医療が受けられる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報交換をして、連携がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時間をつくって面会に行き、病院関係者と情報交換をして、早期退院に向けて相談し連携が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や日々、本人やご家族の意向をお尋ねし、医療機関や職員で方針を共有し、チームで支えていけるよう支援している。	重度化した場合と看取りに関した指針があり、利用開始時に本人、家族等へ説明し意向を聞き同意を得ている。段階を踏んで話し合いを重ね、家族の揺れ動く気持ちに寄り添い、希望の看取り支援を行っている。職員が家族、医師、看護師と方針を共有し、毎年看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、普通救命講習を受講して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアル作成し、消防・地域と合同で訓練を実施し、有事の際の協力をお願いしている。また、施設内での火器（タバコ・線香・ローソク）の使用はご遠慮いただいている。	年3回の防災訓練があり、内1回は消防署の立ち会いで、夜間想定や大雨による災害対策の訓練も行っている。地域住民が参加し避難場所での見守り協力体制もある。毎日、火災予防の周辺機器の点検もあるが、訓練の2回はグループホーム合同であり単独訓練は1回である。	万一の場合に職員が慌てず、適切な行動が取れるように、夜間の職員一人体制時の自主訓練を少しずつ回数を積み重ねることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の際は、目線を合わせて傾聴している。又、年長者として敬い、誇りやプライバシーを損なわないような言動を心がけている。	排泄誘導は、周りに気づかれないよう居室のトイレ誘導を行っている。言葉掛けは、利用者に合わせ敬語及び疑問形で行っている、職員のメモ紙などの処分にも配慮し、個人情報保護に努めている。個人記録保管は適切で、職員の守秘義務の同意も確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を大事にし、自分の想いを伝える事ができるような環境作りをし、本人本位の支援が出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、観察をし、アセスメントして、本人の希望に沿った支援となるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の顔なじみの美容室から散髪に来てもらったり、衣服等は好みの物を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を大事にし、その人が出来る事をお手伝いしてもらったり、食べたい物を聞きながら献立に取り入れている。	食材は地元の商店で購入し、利用者の希望を聞き野菜中心に1週間の献立を立て、職員が交替で調理している。本人に合わせ食事量の調節やきざみもある。利用者はボードに2日分の献立の記入や布巾たたみなどを行っている。季節の行事食や、本人希望の外食など食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の現状に合わせ他食事形態で提供し、食事や水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせ他口腔ケアをし、清潔保持に努め、義歯の消毒も定期的に実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	元々、リハビリパンツだった方が、本人の希望により布パンツになった方もいる。また、ベッドサイドにPトイレを置き、ご自分で排泄できるようになられた。	居室のトイレに排泄表を掲示しチェックは職員が行っている。自立の利用者は職員の見守りで排泄後確認している。また車椅子利用者には、失敗しないよう職員が声掛けして誘導しており、本人の希望で職員の見守りにより排便状況を把握し、リハビリパンツから布パンツに移行できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量の把握をして、食物繊維の多い食事の提供や、好みの飲み物を提供している。また、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節を感じて楽しめるよう菖蒲湯やミカン湯をたてている。また、入浴日以外でも状態や希望に合わせて入浴ができるように支援している。	週2回、午前の入浴体制であるが、本人の希望で午後からの入浴や予定日以外の準備もある。車椅子使用で浴槽に入れない場合は、足浴とシャワーを同時に行い、湯船に入った気分になれるよう工夫している。季節の菖蒲湯やみかん湯、バラ湯など楽しんでおり、入浴拒否も少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアーにベッドを設置し、いつでもどなたでも休めるようになっており、よく利用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイルがあり、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こちらからお願いしなくても、本人から自然にやって来られて、お手伝いして下さる。又、職員ともコミュニケーションをとりながら手作業をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調をみて戸外へ出かけ、気分転換や季節を感じてもらえるよう支援している。又希望があれば、ご家族との外出や外食もできるよう支援している。	年間行事で外出計画を立て、車椅子対応の車で出掛けている。本人の希望に沿って、近くの道の駅での買い物や商業施設にて外食を楽しんでいる。また、地域の保育園の交流会が催される系列事業所へ出掛けている。天気の良い日は、玄関先での日光浴や周辺の散歩など、外気にふれ気分転換ができる支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の意向で、お金を所持されている方もおられ、外出や買い物の機会があれば、支払いをされることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯電話で自由に連絡を取っている方もおられる。また、遠方のご家族より絵手紙が定期的に送られてきて楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、作品や行事の写真を掲示して楽しんでもらえるようにしている。また、フロアーには、テレビやソファーがあり、畳やベッドでいつでもゆっくりやすめるように工夫している。	リビングは、ソファで囲んだテレビコーナーや畳の間、ベッドで休むことが出来、本人が自由に寛げる配置の工夫がある。また、行事の飾りを職員と利用者が一緒に行い季節感がある。掃除は朝から職員が行い、共用の場は整理整頓が行き届き、清潔で居心地がよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには、一人掛けの椅子やソファーがあり、思い思いの場所でくつろいでいる。又、畳やベッドではいつでも休めるようにしており、良く休んでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にされている物や使い慣れた物を相談して持ってきてもらっている。本人の過ごしやすい空間となるよう拝領している。	事業所設置のベッド、クローゼット、トイレ、洗面台がある。持ち込みのテレビや仏壇、家具は本人の希望を取り入れ配置している。壁には、保育園児の作品のプレゼントや本人の暮らしの様子の写真をアルバムにして掛けてあり、本人らしい居室の工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクを考え、歩行動線の妨げにならないように安全配慮して、環境の整備をしている。		